

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/11/02

## ユーロこう着の可能性

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ユーロ/円</u>	➡	<b>チャート・材料共に横ばいを示唆</b> 予想レンジ: 131.000~134.800円	2-3
<u>ユーロ/ドル</u>	➡	<b>ネックライン下抜け</b> 予想レンジ: 1.12400~1.18400ドル	4-5
<u>ポンド/円</u>	➡	<b>BOEスーパーサズデーに注目</b> 予想レンジ: 146.250~153.750円	6-7
<u>ポンド/ドル</u>	➡	<b>スーパーサズデーとEU離脱交渉</b> 予想レンジ: 1.29000~1.35000ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

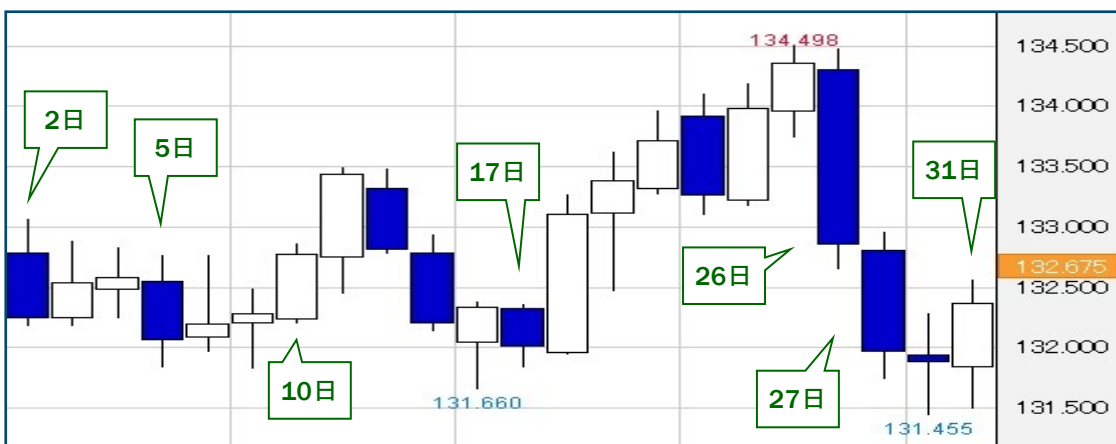
Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## ユーロ/円 10月の推移

EUR/JPY

10月のユーロ/円相場は131.455～134.498円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.4%の小幅下落(ユーロ安・円高)となった。

概ね131円台半ば～133円台半ばでもみ合いが続いていたが、世界的な株高を背景とする「リスク・オン」の流れに乗って、25日に2015年11月以来の高値となる134.498円まで上昇。しかし、欧州中銀(ECB)理事会で、ほぼ市場予想通りの緩和縮小策が発表されると、材料出尽しとの見方から反落。一時は事実上の独立先送りを示唆していたスペイン・カタルーニャ州知事が独立を宣言した事も重しとなり、30日に131.40円台まで下落した。



## 四本値

OPEN	132.786
HIGH	134.498
LOW	131.455
CLOSE	132.367

2日	前日にスペイン・カタルーニャ自治州で行われた分離独立を問う住民投票で、投票者の90%が独立に賛成したと報じられた事を受け、ユーロは売りが優勢となった。
5日	ECB理事会の議事録で、「資産購入の延長や対象などに関する将来のシナリオについて予備的に議論」していた事が明らかとなった。その他、「強い刺激策が依然として必要」「為替相場の動向を注視することで見解一致」「ECBは将来の政策に対する市場の期待に留意すべき」「政策スタンスの再評価は、緩やかで慎重にすべき」などと、ややハト派的な見解が示されたためユーロが続落した。
10日	スペイン・カタルーニャ自治州のプチデモン首相が、住民投票の結果を踏まえて独立を宣言すると同時に中央政府との協議を可能にするため効力を一時停止すると発表。事実上の独立宣言先送りとの見方からユーロ買いが優勢となった。
17日	独10月ZEW景気期待指数は17.6と市場予想(20.0)には届かなかったが、前回(17.0)を上回った。
26日	ECBは声明で「来年1月～9月まで債券買入れを月額300億ユーロに減額」と発表。合わせて「必要ならば買入れの期間や規模を拡大する選択肢を残す」「買入れ終了後も長期にわたって保有債券の償還元本を再投資する」とした事を受けてユーロ売りが優勢となった。減額の規模や延長期間は概ね予想通りであったが、今後も延長・拡大の用意があるとの姿勢を示した事がハト派的と受け止められた。その後ドラギ総裁が「コアインフレが持続的に上昇する兆候はまだみられない」として「十分な量的緩和は依然として必要」との見解を示した事もあり、ユーロ売りが加速した。
27日	カタルーニャ州議会は独立に関する動議を可決し、スペインからの独立を宣言した。これを受けてユーロ売りが活発化。また、米国債への逃避的な買いで米長期金利が低下したため、ドル/円にも下落圧力がかかった。なお、その後、上院からカタルーニャ州の直接統治権を承認されたラホイ・スペイン首相は、同州政府の閣僚を解任し議会を解散、さらに12月21日に州議会の選挙を実施すると発表した。
31日	ユーロ圏の9月失業率は8.9%、7-9月期域内総生産(GDP)・速報値は前年比+2.5%と、それぞれ市場予想(9.0%、+2.4%)より良好な結果となったが、10月消費者物価指数・速報値は前年比+1.4%と市場予想および前月分(いずれも+1.5%)を下回った。

# EUR/JPY

## 日 経 平 均

OPEN	20400.51
HIGH	22086.88
LOW	20363.28
CLOSE	22011.61

## 独 D A X

OPEN	12866.27
HIGH	13255.38
LOW	12849.59
CLOSE	13229.57

## 独2年債利回り

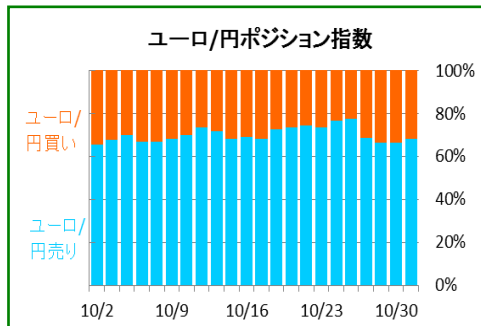
OPEN	-0.681%
HIGH	-0.642%
LOW	-0.770%
CLOSE	-0.750%

## 独10年債利回り

OPEN	0.482%
HIGH	0.503%
LOW	0.354%
CLOSE	0.363%

## 10月のポジション動向

## 11月のユーロ圏の注目イベント



- ・9月ユーロ圏小売売上高(7日)
- ・EU経済・財務相理事会(7、17日)
- ・7-9月期独GDP・速報値(14日)
- ・9月ユーロ圏鉱工業生産(14日)
- ・11月独ZEW景気期待指数(14日)
- ・11月独/ユーロ圏製造業PMI・速報(23日)
- ・ECB議事録(23日)
- ・11月独ifo景況感指数(24日)
- ・11月独消費者物価指数・速報値(29日)
- ・11月ユーロ圏消費者物価指数・速報値(30日)

## 11月の見通し

### 月間指標カレンダー(外部リンク)

10月のユーロ/円相場は、値幅がわずか3円弱と、7月以来となる小動きであった。日足チャート上では、ボリンジャーバンドの±2シグマと、その基準となる20日移動平均線がいずれもほぼ横ばいで推移しており、現状はもち合い局面にある事を示している。したがって、バンドの上下(執筆時・・・+2シグマ:134.220円、-2シグマ:131.424円)をブレイクするにはそれ相応のエネルギーが必要と見る。

材料面では、ユーロ、円ともに手がかりとなりそうなものは少なく、こう着相場入りをうかがわせる。ユーロについて、欧州中銀(ECB)理事会を通過した事により、当面の間はインフレ率がECB目標(2%弱)を大きく上回る動きを見せない限り、ECBの緩和縮小観測を手がかりとしたユーロ買いは出にくいと見る。スペイン・カタルーニャ州の独立問題についても、欧州連合(EU)加盟に承認される見通しが立たない以上、市場ではスペインの国内問題の域を出ないと解され、ユーロ売り材料になりにくいだろう。また、日銀の金融政策の変更が見込めない事から、円についても材料が乏しいと言える。(川畑)

(予想レンジ:131.000~134.800円)

## ユーロ/ドル 10月の推移

EUR/USD

10月のユーロ/ドル相場は1.15737~1.18796ドルのレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.4%の下落(ユーロ安・ドル高)となった。

欧州中銀(ECB)理事会を前に概ね1.17~1.19ドルでレンジを形成していたが、理事会でほぼ市場予想通りの緩和縮小策が発表された事から材料出尽くしムードが広がると、27日に約3カ月ぶり安値となる1.1570ドル台まで下落した。米年内追加利上げ観測が根強い事や、次期米連邦準備制度理事会(FRB)議長候補レースでタカ派と目されるテイラー・スタンフォード大教授が一時優勢となった事を受けたドル買いも重しとなった。なお、スペインのカタルーニャ州が独立を発表するも、ユーロ相場を大きく揺さぶるには至らなかった。



## 四本値

OPEN	1.18013
HIGH	1.18796
LOW	1.15737
CLOSE	1.16473

2日	前日にスペイン・カタルーニャ自治州で行われた分離独立を問う住民投票で、投票者の90%が独立に賛成したと報じられた事を受け、ユーロは売りが優勢となった。
5日	ECB理事会の議事録で、「資産購入の延長や対象などに関する将来のシナリオについて予備的に議論」していた事が明らかとなった。その他、「強い刺激策が依然として必要」「為替相場の動向を注視することで見解一致」「ECBは将来の政策に対する市場の期待に留意すべき」「政策スタンスの再評価は、緩やかで慎重にすべき」などと、ややハト派的な見解が示されたためユーロが続落した。
10日	スペイン・カタルーニャ自治州のプチデモン首相が、住民投票の結果を踏まえて独立を宣言すると同時に中央政府との協議を可能にするため効力を一時停止すると発表。事実上の独立宣言先送りとの見方からユーロ買いが優勢となった。
17日	独10月ZEW景気期待指数は17.6と市場予想(20.0)には届かなかったが、前回(17.0)を上回った。
26日	ECBは声明で「来年1月~9月まで債券買い入れを月額300億ユーロに減額」と発表。合わせて「必要ならば買い入れの期間や規模を拡大する選択肢を残す」「買い入れ終了後も長期にわたって保有債券の償還元本を再投資する」とした事を受けてユーロ売りが優勢となった。減額の規模や延長期間は概ね予想通りであったが、今後も延長・拡大の用意があるとの姿勢を示した事がハト派的と受け止められた。その後ドラギ総裁が「コアインフレが持続的に上昇する兆候はまだみられない」として「十分な量的緩和は依然として必要」との見解を示した事も合わせ、ユーロ売りが加速した。
27日	カタルーニャ州議会は独立に関する動議を可決し、スペインからの独立を宣言した。これを受けてユーロ売りが活発化した。その後、上院からカタルーニャ州の直接統治権を承認されたラホイ・スペイン首相は、同州政府の閣僚を解任し議会を解散、さらに12月21日に州議会の選挙を実施すると発表した。
31日	ユーロ圏の9月失業率は8.9%、7-9月期域内総生産(GDP)・速報値は前年比+2.5%と、それぞれ市場予想(9.0%、+2.4%)より良好な結果となったが、10月消費者物価指数・速報値は前年比+1.4%と市場予想および前月分(いずれも+1.5%)を下回った。



EUR/USD

## NYダウ平均

OPEN	22423.47
HIGH	23485.25
LOW	22416.00
CLOSE	23377.24

## 独10年債利回り

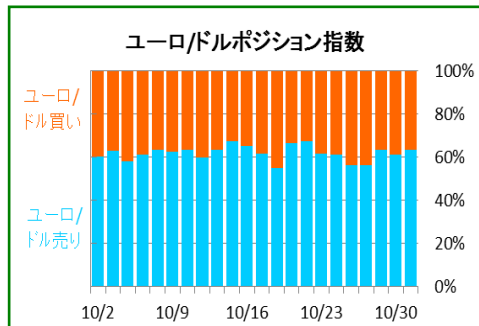
OPEN	0.482%
HIGH	0.503%
LOW	0.354%
CLOSE	0.363%

## 米10年債利回り

OPEN	2.3408%
HIGH	2.4756%
LOW	2.2712%
CLOSE	2.3793%

## 10月のポジション動向

## 11月のユーロ圏の注目イベント



- ・9月ユーロ圏小売売上高(7日)
- ・EU経済・財務相理事会(7、17日)
- ・7-9月期独GDP・速報値(14日)
- ・9月ユーロ圏鉱工業生産(14日)
- ・11月独ZEW景気期待指数(14日)
- ・11月独/ユーロ圏製造業PMI・速報(23日)
- ・ECB議事録(23日)
- ・11月独ifo景況感指数(24日)
- ・11月独消費者物価指数・速報値(29日)
- ・11月ユーロ圏消費者物価指数・速報値(30日)

## 11月の見通し

## 月間指標カレンダー(外部リンク)

欧州中銀(ECB)の緩和縮小策が発表された事で、インフレ率がECBの目標水準(2%弱)を大幅に超える動きとならないかぎり、しばらくの間は新たなECB緩和縮小策への期待が高まりにくくなるを見る。したがって、当面はドルの動きがカギとなる。足下では米年内利上げ期待と税制改革期待がドルを支えており、期待が一段と高まってドル買いが強まる場面ではユーロ/ドル相場に下落圧力が掛かりやすいと見る。

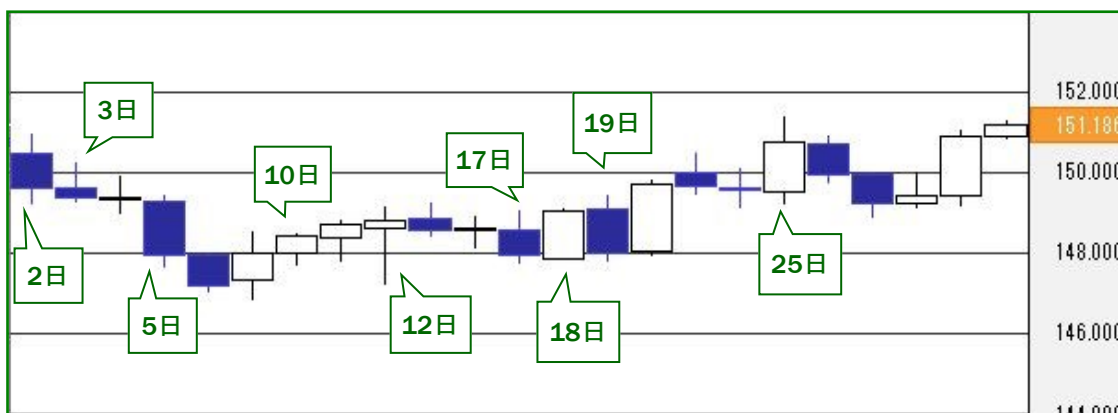
テクニカル面では、9月8日高値(1.20922ドル)を頭、8月2日高値(1.19099ドル)と10月12日高値(1.18796ドル)を肩とする「三尊」が出現している。先月末に1.16ドル台後半に位置するネックラインを下抜けたことにより、相場は下落トレンドに入った可能性がある。シカゴIMMの投機筋ポジションが夏以降高水準のロング(=ユーロ買い持ち)を維持しており、調整が入れば大きく下げる可能性があると考えられる。下値目処は、過足の一目均衡表の基準線(執筆時1.14656ドル)を割り込むようなら、教科書的にはネックラインと頭の上げ幅分の下げにあたる、1.1240ドル前後に向けた一段安も考えられる。(川畑)

(予想レンジ: 1.12400~1.18400ドル)

## ポンド/円 10月の推移

GBP/JPY

10月のポンド/円相場は146.900～151.389円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.2%の小幅な上昇(ポンド高・円安)となった。月間の値幅は4.5円前後と、この通貨ペアには小さく、前月の約11.6円の半分以下の値動きにとどまった。欧州連合(EU)との離脱交渉が順調に進まなかった事が不安視され上値が重かった半面、英中銀の利上げ期待が下値を支えたため、方向感が出にくかった。



## 四本値

OPEN	150.494
HIGH	151.389
LOW	146.900
CLOSE	150.943

2日	英9月製造業PMIが、55.9と市場予想(56.2)を下回り、前回(56.7)から低下した事を受けてポンド売りが強まった。
3日	英9月建設業PMIが48.1と、市場予想および前回(いずれも51.1)を下回るとポンド売りが強まった。欧州委員会のユンケル議長が、英国のEU離脱について、「依然として明確性が欠けている」「離脱議論が不十分」「離脱議論の第2段階へ進むのは尚早」との見解を示した事も重しとなった。
5日	独産業連盟(BDI)が「英国内に拠点を持つ独企業は、ハード・ブレグジットの可能性を想定しなければならない」との見解を示した事を受けて、ユーロ買い・ポンド売りの動きが強まると、ポンド/円は下落した。
10日	英8月鉱工業生産は前月比+0.2%と市場予想と一致。なお、7月分が前月比+0.2%から+0.3%へと上方修正された。また、英8月貿易収支は142.45億ポンドの赤字と、赤字額が市場予想(111.50億ポンド)を上回った。
12日	英国との離脱(Brexit)交渉を終えたバルニエEU首席交渉官が、Brexit協議について「行き詰まっている」と発言。これを受けてポンド売りが活発化した。しかしその後、バルニエEU首席交渉官が英国に対し「2年のEU市場へのアクセス維持と移行期間を設ける」事を提案したとの報道を受けてポンドは急反発した。
17日	ラムスデンBOE副総裁は議会証言で「数カ月以内」の利上げに賛成する準備はできていないとの見解を示した。続いて、金融政策委員会(MPC)の外部委員に新たに就任したテンレイロ氏は「11月の利上げ」に賛成票を投じる準備はできていないとしながら、国内の労働市場でインフレ圧力が増せば、「数カ月以内」に賛成票を投じる可能性がある」と述べた。これを受けて11月の利上げ期待が後退するとポンド売りに傾いた。なお、その後、カーニーBOE総裁は「BOEは雇用創出と成長を後押しする必要性と、目標を上回る可能性があるインフレ率との間でバランスを取らなくてはならない」と述べた。
18日	英9月失業者数は0.17万人増、同失業率は2.3%であった。注目の6-8月週平均賃金は前年比+2.2%と市場予想(+2.1%)を僅かに上回った。これを受けて一時ポンドが買われたが、インフレ圧力を高めるほどの賃金上昇ではないとの見方から上昇は一時的であった。
19日	「スペイン政府はカタルーニャ州の自治権を停止する憲法第155条の適用プロセスを開始する」と報じられた。ポンド/円はユーロ/円の下落につれたほか、英9月小売売上高(含自動車燃料)が前月比-0.8%と予想(-0.1%)を下回った事も重しとなり、148円台を割り込んで下落した。
25日	英7-9月期国内総生産(GDP)・速報値は前期比+0.4%、前年比+1.5%(予想:+0.3%、+1.5%)であった。概ね予想通りだったが、英中銀(BOE)が次週の利上げを躊躇う内容ではないとの見方からポンド買いが活発化した。

## GBP/JPY

## 日経平均

OPEN	20400.51
HIGH	22086.88
LOW	20363.28
CLOSE	22011.61

## FTSE100

OPEN	7372.76
HIGH	7565.11
LOW	7372.73
CLOSE	7493.08

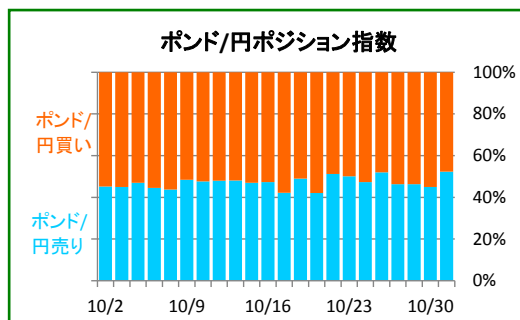
## 英2年債利回り

OPEN	0.467%
HIGH	0.532%
LOW	0.397%
CLOSE	0.460%

## 英10年債利回り

OPEN	1.388%
HIGH	1.440%
LOW	1.266%
CLOSE	1.332%

## 10月のポジション動向



## 11月の英国の注目材料

- ・10月英製造業PMI(1日)
- ・10月英建設業PMI(2日)
- ・BOE政策金利発表(2日)
- ・BOE議事録(2日)
- ・BOEインフレレポート(2日)
- ・10月英サービス業PMI(3日)
- ・9月英貿易収支(9日)
- ・9月英鉱工業生産(9日)
- ・英とEU、離脱に関する交渉(9-10日)
- ・10月英消費者物価指数(14日)
- ・10月英小売物価指数(14日)
- ・10月英生産者物価指数(14日)
- ・10月英雇用統計(15日)
- ・10月英小売売上高(16日)
- ・7-9月期英GDP・改定値(28日)

## 11月の見通し

## 月間指標カレンダー(外部リンク)

11月のポンド/円相場は、なにはともあれ2日の「英中銀(BOE)スーパー・サーズデー」に注目だ。BOEは2007年7月以来、10年ぶりに利上げに踏み切る公算が大きいと見られている。9月にはインフレ率がBOEのターゲットである2.0%を大きく超える3.0%に達しており、インフレ抑制に動く必要性が高まっている。欧州連合(EU)からの離脱決定による英経済の落ち込みが想定したほどではなく、7-9月期国内総生産(GDP)が堅調を維持した事も利上げ機運を高めたようだ。なお、金利デリバティブ市場が織り込む利上げ確率は11月1日時点で9割前後となっている。このため、万が一利上げ見送りとなればポンドの大幅下落は免れないだろう。一方で、予想通りに利上げしたとしても、BOEの追加利上げスタンスが読み取れなければ、ポンドの上昇は限られそうだ。インフレレポートで示される来年の見通し(インフレ予測)やカーニー総裁の会見も重要な手掛りとなりそうだ。

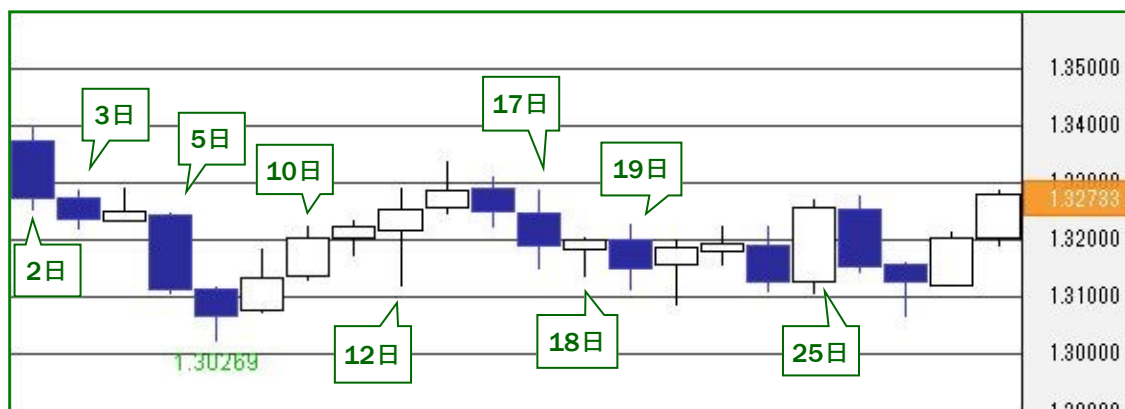
その他、ポンド/円相場をめぐっては、引き続き英国とEUの離脱交渉の過程にも注目だ。なお、11月9-10日の次回交渉に向けて、英国のデービスEU離脱担当相は離脱に伴う精算金で譲歩の用意がある事を示唆している。離脱の条件面の交渉を終えて、離脱後の通商面の交渉に進む見通しが立つか注目したい。(神田)

(予想レンジ: 146.250-153.750円)

# GBP/USD

## ポンド/ドル 10月の推移

10月のポンド/ドル相場は、1.30269~1.34016ドルのレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.9%の下落(ポンド安・ドル高)となった。上旬は、英国と欧州連合(EU)の離脱交渉が進展せずポンド売りが優勢であった。その後はやや値を戻したが決め手を欠き、概ね1.31-1.33ドルのレンジ内でもみ合った。米長期金利が上昇する中、ドル高に振れた事がポンドの重しとなった一方、英中銀(BOE)の11月利上げへの期待がポンドを支えたため、方向感を欠く展開となった。



### 四本値

OPEN	1.33751
HIGH	1.34016
LOW	1.30269
CLOSE	1.32831

2日	英9月製造業PMIが、55.9と市場予想(56.2)を下回り、前回(56.7)から低下した事を受けてポンド売りが強まった。
3日	英9月建設業PMIが48.1と、市場予想および前回(いずれも51.1)を下回るとポンド売りが強まった。欧州委員会のユンケル議長が、英国の欧州連合(EU)離脱について、「依然として明確性が欠けている」「離脱議論が不十分」「離脱議論の第2段階へ進むのは尚早」との見解を示した事も重しとなった。
5日	独産業連盟(BDI)が「英国内に拠点を持つ独企業は、ハード・ブレグジットの可能性を想定しなければならない」との見解を示した事を受けて、ユーロ買い・ポンド売りの動きが強まると、ポンド/ドルは下落した。
10日	英8月鉱工業生産は前月比+0.2%と市場予想と一致。なお、7月分が前月比+0.2%から+0.3%へと上方修正された。また、英8月貿易収支は142.45億ポンドの赤字と、赤字額が市場予想(111.50億ポンド)を上回った。
12日	英国との離脱(Brexit)交渉を終えたバルニエ欧州連合(EU)首席交渉官が、Brexit協議について「行き詰まっている」と発言。これを受けてポンド売りが活発化した。しかしその後、バルニエEU首席交渉官が英国に対し「2年のEU市場へのアクセス維持と移行期間を設ける」事を提案したとの報道を受けてポンドは急反発した。
17日	ラムステンBOE副総裁は議会証言で「数カ月以内」の利上げに賛成する準備はできていないとの見解を示した。続いて、金融政策委員会(MPC)の外部委員に新たに就任したテンレイロ氏は「11月の利上げ」に賛成票を投じる準備はできていないとしながら、国内の労働市場でインフレ圧力が増せば、「数カ月以内」に賛成票を投じる可能性があるとした。これを受けて11月の利上げ期待が後退するとポンド売りに傾いた。なお、その後、カーニーBOE総裁は「BOEは雇用創出と成長を後押しする必要性と、目標を上回る可能性があるインフレ率との間でバランスを取らなくてはならない」と述べた。
18日	英9月失業者数は0.17万人増、同失業率は2.3%であった。注目の6-8月週平均賃金は前年比+2.2%と市場予想(+2.1%)を僅かに上回った。これを受けて一時ポンドが買われたが、インフレ圧力を高めるほどの賃金上昇ではないとの見方から上昇は一時的であった。
19日	「スペイン政府はカタルーニャ州の自治権を停止する憲法第155条の適用プロセスを開始する」と報じられた。ポンド/ドルはユーロ/ドルの下落につれたほか、英9月小売売上高(含自動車燃料)が前月比-0.8%と予想(-0.1%)を下回った事も重しとなり、148円台を割り込んで下落した。
25日	英7-9月期国内総生産(GDP)・速報値は前期比+0.4%、前年比+1.5%(予想:+0.3%、+1.5%)であった。概ね予想通りだったが、英中銀(BOE)が次週の利上げを躊躇う内容ではないとの見方からポンド買いが活発化した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。



## GBP/USD

## NYダウ平均

OPEN	22423.47
HIGH	23485.25
LOW	22416.00
CLOSE	23377.24

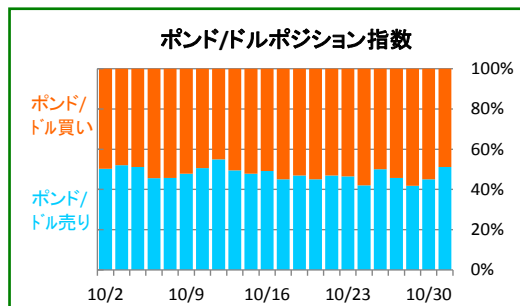
## 米10年債利回り

OPEN	2.3408%
HIGH	2.4756%
LOW	2.2712%
CLOSE	2.3793%

## 英10年債利回り

OPEN	1.388%
HIGH	1.440%
LOW	1.266%
CLOSE	1.332%

## 10月のポジション動向



## 11月の英国の注目材料

- ・10月英製造業PMI(1日)
- ・10月英建設業PMI(2日)
- ・BOE政策金利発表(2日)
- ・BOE議事録(2日)
- ・BOEインフレレポート(2日)
- ・10月英サービス業PMI(3日)
- ・9月英貿易収支(9日)
- ・9月英鉱工業生産(9日)
- ・英とEU、離脱に関する交渉(9-10日)
- ・10月英消費者物価指数(14日)
- ・10月英小売物価指数(14日)
- ・10月英生産者物価指数(14日)
- ・10月英雇用統計(15日)
- ・10月英小売売上高(16日)
- ・7-9月期英GDP・改定値(28日)

## 11月の見通し

## 月間指標カレンダー(外部リンク)

11月のポンド/ドルは、英中銀(BOE)の動向と、英国の欧州連合(EU)からの離脱(Brexit)交渉を眺めつつの相場展開となりそうだ。利上げが見込まれる2日のBOE金融政策委員会(MPC)は、議事録の即時公開のほか、インフレレポートの公表やカーニー総裁の会見も行われる一大イベントで、「スーパー・サズデー」と呼ばれる。焦点は、織り込み済みの利上げよりも次回以降の追加利上げの可能性の有無であろう。仮に予想通りに利上げしても、「単発利上げ」との見方が強まればポンド売りが強まる事も考えられる。ただ、ポンドの下落をインフレ上昇要因として警戒するBOEが、なんらかの予防線を張る可能性も捨てきれない。やはり、インフレレポートで示される来年以降の予測やカーニー総裁の発言などが重要となろう。

また、Brexitについては、11月9-10日に英国とEUの次回交渉が予定されている。英国側はEUに支払う精算金で譲歩する姿勢を示しているが、EU側の見積もりとはなお開きがある模様だ。こうした離脱の条件に関する交渉を早めに終えて、離脱後の通商面に関する交渉に移れるか注目したい。

その他、例年この時期は年末に向けてドルが強含む傾向にある。ポンドが弱含む局面ではポンド/ドルの下落に拍車がかかる可能性もあるため注意が必要だろう。(神田)

(予想レンジ: 1.29000-1.35000ドル)